



MARUTANE  
Quality Seeds

いんげん

# つるなし すじなし 丸莢 リアル

濃緑で軟莢 色つやのよい強健種

## 特 性

- ① 莢は光沢のある濃緑色の丸莢で、長さ 12cm 前後に良く揃います。表面が絹のように滑らかで肉質が軟らかく食味は良好です。曲り莢が少なく秀品率が高いつるなし・すじなし種です。
- ② 播種後 53 日位で収穫開始となる早生種ながら次々に開花し、中・後期に収量が多くなるタイプです。収穫期間中の品質にむらがないので長期どりに向く品種です。
- ③ 草姿は立性でやや大柄葉色が濃く、草丈は 60cm 内外です。生育旺盛で高温期でも着莢と莢伸びがよく強健で作り易いことから営利栽培はもとより自家用栽培でも高い能力を発揮します。



## 栽培のポイント!

**圃 場** 土質は特に選びませんが、根の酸素要求量が多いので排水が良く、保水力もある肥沃な圃場を選定します。転換畑なら秋のうちに、スキ耕して土壌の乾燥・風化を促します。一般畑でも播種の 1 ヶ月前頃に堆肥を施し深耕して膨軟な土壌状態にしておきます。また、苦土石灰等で pH を 5.5 ~ 6.3 に調整します (120 ~ 150kg / 10a)

**元 肥** 豆類は一般に少肥でよいと言われるようですが、菜豆の場合は比較的肥料の必要量が多いのが特長です。養分吸収量は開花後が最も多いのですが、生育初期の肥料不足は開花数や分枝の伸長に悪影響を与えますので注意します。油粕・骨粉等の有機質肥料を中心にして速効性・暖効性の肥料を組み合せ過不足ないように施用します。施肥量は三要素各 10 ~ 15kg / 10a を目安に土壌や作型により加減します。

**うね立** うね幅は 120 ~ 150cm で株間 35 ~ 40cm の 2 条植とします。耕地に余裕があれば、うね幅 70 ~ 90cm、株間 35 ~ 40cm の単条植にすると株の受光がよくなり秀品率が高まります。両側から収穫できるので見落しがなくなる利点もあります。いずれの場合でも密植しすぎると極端に減収するのでできるだけ疎植にすることです。また、うねは高うねにすると収穫が楽ですが土壌の通気性が増すので生育が安定します。排水不良畑では 20cm 以上に、一般畑でも 15cm 位に上げるとよい。マルチは必ず行います。早春のハウスでは透明マルチをトンネルや雑草の多い畑では黒マルチを露地ではシルバーかダブルマルチを使用します。

**播 種** (直播) 株当り 3 ~ 4 粒ずつ播き、鎮圧して土に密着させます。覆土は 3cm 位です。播種後の灌水は特に乾燥していなければ必要ありません。地温が 25℃なら 3 ~ 4 日で発芽します。15 ~ 30℃の範囲で発芽可能ですが霜には弱いので、露地栽培では最終降霜日の 5 ~ 7 日前が播種の早限です。発芽後本葉が展開したら株当り 1 本に間引きます。10a 当りの播種量は 3 ~ 6l です。

(育苗) 低温期の播種では発芽障害が多く育苗した方が生育がよく揃う。抑制栽培でも乾燥による生育の不揃いや病虫害を避けるためには育苗した方がよい。育苗日数は 30 ~ 40 日で本葉 3.5 葉位の苗に位上げる。低温期育苗 (温床) では床温 23 ~ 25℃で発芽させ播種後 7 ~ 10 日で 10 ~ 12cm のポリ鉢に移植します。播種時にたっぷり灌水しますが鉢上げまでは灌水しません。定植の 7 日前には床温を 15℃まで下げて馴化および硬化をはかります。床温が高すぎたり過温や換気不足で軟弱徒長しないように注意します。

**誘 引** 長さ 1m 位の杭を 5m 間隔で打込み地表から 20cm の高さに針金を張り、そこに株の中段をしっかりと誘引します。

**追 肥** 良質の莢を長期間収穫するには最初の収穫の直後に追肥を行います。以後 7 日 ~ 10 日おきに追肥します。肥料に油粕や速効性の化成などを使い株元から 20cm 位離して穴肥とします。また開花後は乾燥するようなら適時灌水 (液肥) し、収穫期間中は肥効。水分不足にならぬように特に気をつけます。

**収 穫** 莢長が 12cm 内外になった莢から順次収穫を始めます。少々とり遅れても子実の太りが遅い品種ですから品質の低下はみられませんが、長期穫りで多収穫を狙うにはできる限り若莢で収穫していくのがコツです。とり始めは 1 日おきでも盛期には毎日収穫します。そうすれば 1 ヶ月以上続けて良質の莢を収穫することが出来ます。くず莢は草勢を保つためにも必ず取除いて下さい。黄莢や老化した下葉もはやめに摘みとります。

**病虫害** 播種時から苗期にかけての苗立枯・根腐・炭そ病には予防的な防除を行います。生育期の葉焼・さび・かさ枯病や開花期以降の菌核・灰カビ病には発病を認めたら適応薬剤を散布します。またアブラムシやフキノメイガ等の害虫にも注意して下さい。

